

杜の都の環境をつくる審議会
第4回「仙台市みどりの基本計画」改定検討部会 議事概要

日 時：令和2年9月7日（月）10時～12時

会 場：市役所本庁舎6階 第一委員会室

出席委員：舟引部会長，池邊委員，小貫委員，近藤委員，福岡委員，渡邊委員（計6名）

欠席委員：なし

事務局：建設局次長，百年の杜推進部長，百年の杜推進課長，同課全国都市緑化フェア推進担当課長，同課主幹兼企画調整係長，同課緑化推進係長，同課緑地保全係長，公園課長，同課公園整備担当課長，同課主幹兼施設管理係長，同課公園マネジメント推進係長，同課青葉山公園整備室長，河川課長，河川課主幹兼広瀬川創生室長（計14名）

1. 開会

○事務局（岡田課長：百年の杜推進課）

—開会—

—議事録署名人の指名，傍聴ルールの説明—

・議事録署名人：舟引部会長，福岡委員

2. 議事

(1)次期仙台市みどりの基本計画骨子（修正案）について

○事務局（水嶋主幹：百年の杜推進課企画調整係）

—資料1について—

○近藤委員

・百年の杜推進部が関連する計画の会議への参加や発言の機会はあるか。

○事務局（岡田課長）

・庁内の関係課会議で意見を述べている。特に総合計画については政策企画課から個別に相談を受けている。

○舟引部会長

・都市計画マスタープランの緑は，みどりの基本計画と対応しているのか。内容が完全に一致していなくてもよいが，質の違いが無いようにする必要がある。

○事務局（菅原主任：百年の杜推進課企画調整係）

—資料2-1，2-2，2-3，2-4，2-5について—

○福岡委員

・資料2-2において鳥観図と各エリアの図の対応が示されるとよい。

・資料2-2におけるグリーンインフラのエリアイメージと，資料2-3におけるグリーンインフラの機能を示した図を1つのグリーンインフラ像として伝えることができるとよい。

・資料2-3において，市街地（都心部）と市街地（都心部以外）の写真の違いがわかりやすくなるとよい。

○事務局（岡田課長）

・資料2-2において鳥観図と各エリアの対応関係の示し方について工夫する。

・資料2-2と資料2-3を合わせた形での見せ方を検討する。

・資料2-3の市街地（都心部）と市街地（都心部以外）の写真について差し替えを検討する。

○渡邊委員

- ・資料 2-2 の鳥観図において、海岸堤防は植栽があるが港湾周辺は緑がないこと、せっかくの勾当台エリアがわからないこと、都心部や市街地では緑化があまり行われていないことが気になる。
- ・資料 2-1 ではグリーンインフラの機能性が埋もれているような気がする。水と景観、あるいは快適性や心の面などあると思われるが、記述を工夫するとよい。

○事務局（岡田課長）

- ・資料 2-2 について、蒲生や閑上の港湾の部分について表現を工夫したい。
- ・資料 2-1 について、グリーンインフラのわかりやすい表現を検討したい。

○小貫委員

- ・資料 2-2 の鳥観図は、現状をベースとして今後の望ましい姿を描いているとすれば、みどりをもっと溢れているべきだと思う。この図では道路が目立っていたりするが、みどりにしたい場所を明確にできるとよい。
- ・資料 2-3 は概略図よりも資料 2-2 で描いた綺麗な絵を活用したものの方がよい。
- ・資料 2-2 において、河川については奥山から海までの間にイメージが何段階かあると思われるため、もっと細かく描けるとよい。
- ・資料 2-1 において、仙台市における今の課題、グリーンインフラ活用による解決策等についても記載する必要があると思う。

○事務局（岡田課長）

- ・資料 2-1 に関し、1 回目の部会で課題を示したが、その課題と基本方針との対応については示していなかったため、次回の部会において提示したい。
- ・資料 2-2 において、河川や田園について描き方が十分ではなかったため検討する。

○近藤委員

- ・課題について今後どのように対応していくのか。

○事務局（岡田課長）

- ・今回の改定に向けて行った現状分析や、毎年実施しているみどりの基本計画の進捗状況の評価をふまえ、みどりに求められていることを検討し、次の計画につなげていきたい。

○事務局（岡本次長）

- ・第 1 回目の部会において課題への対応について検討したが、このアプローチでは課題解決型の計画となってしまうため、みどりの街のあり方を視点として検討を進めていくこととなった。そのため、現在の状況としては課題を意識しながら検討を進めている段階と認識している。重点施策の議論や全体のまとめにおいて課題を振り返りながら検討してほしい。

○池邊委員

- ・資料 2-1 において、“The Greenest City SENDAI” から「グリーンインフラの推進」の向きに矢印が記載されているが、「グリーンインフラの推進」の結果“The Greenest City SENDAI”へつながるため、矢印の向きが逆だと思う。
- ・資料 2-3 における里山や河川、市街地などでのグリーンインフラの説明があって、その次に資料 2-2 における将来イメージを示した方が一般市民はわかりやすいと思う。
- ・資料 2-4 ではグリーンインフラという言葉がないため、他の資料の内容との繋がりがわかりにくい。
- ・一般市民が資料 2-2～2-4 を見たときに、グリーンインフラの推進によって自分たちの生活がどう良くなるのか見えないと思う。“The Greenest City SENDAI”に繋がるストーリーを示すことができるとよい。

○事務局（岡田課長）

- ・これまで仙台市は市民協働を続けており、グリーンインフラの推進にあたっては市民参加という側面が大きくなる。市民が何をすべきかわかりやすくなるよう、各資料の関係性を整理し示す順序を検討したい。

○福岡委員

- ・資料 2-1 で“The Greenest City SENDAI”の実現を目指すことを説明する際、グリーンインフラの価値や効果をこの資料で伝えるのは難しいと思う。市民も市職員も仙台が目指しているものが一目でわかるような資料にできるとよい。これはみどりの基本計画の中で示すべきものかもしれないし、今後具体的な内容を実現していくために必要な図かもしれない。

○舟引部会長

- ・今回初めて用いるグリーンインフラという言葉で市民がわかるよう記載することが大事だと思う。
- ・前回のみどりの基本計画をつくった石川幹子先生の「グリーンインフラ」という本の中で定禅寺通が戦災復興計画によりつくられたことが記載されているとおり、伊達政宗の町割りから杜の都という名前ができた仙台は戦災復興区画整理により定禅寺通を含めた大きなグリーンインフラを既につくっている。それが東北の中核都市として発展するとともに周辺に高水準のニュータウンを形成し、トータルとして杜の都というイメージをつくった。さらに東日本大震災からの復興により Eco-DRR の考えを取り入れたこともグリーンインフラの大きなステップとなった。そのため今日の仙台が他都市より比較的優位なみどりを持っている。今後は、防災性や安全性を高めるとともに快適性を高めるという観点からグリーンインフラを整理することで Greenest を目指すというロジックになるとよい。
- ・仙台ではグリーンインフラに関する多くのことを既にやってきているが、Greenest に向けて今後取り組む必要があるのが小貫委員の発言にあった課題であり、これをみどりの将来像における文章の中で整理する必要がある。その上で福岡委員の発言にあったグリーンインフラ像を提示できるとよい。

○事務局（岡田課長）

- ・今日の意見をふまえながら今後作業を進めていきたい。

(2) 次期計画における重点的な取組み（案）について

○事務局（菅原主任）

—資料 3-1, 3-2 について—

○福岡委員

- ・みどりの基本計画をふまえた事業の展開や達成状況の把握は大事なことである。
- ・資料 2-1 の基本方針「みどりと共生するまち」に「健全な水循環の維持・増進」と記載があることや、資料 2-3 の市街地の図において地下水涵養など水質浄化や水害軽減に資するグリーンインフラが描かれていることをふまえ、資料 3-1 の重点 1 の事業・取組みでは「公園緑地等」はもちろん街路や公有地、民有地などについても検討する必要があると思う。また「公園緑地等」は仙台市全域に渡るような表現へ修正することが望ましい。
- ・資料 3-1 の重点 3 に「街路樹の総合的な管理計画の作成・運用」という事業・取組みがあるが、普通の街路樹更新や運用だけでは少し弱いと思う。街路樹の植栽・管理における雨水の貯留・浸透の促進や暑熱緩和を行うとともに街路自体を歩きやすくするなど、みどり溢れる環境へ更新することで、グリーンインフラとしての街路に向けた事業を行う必要があると思う。
- ・資料 3-2 の「みどりとともに人が育つまち」に関する指標として、市民の公園利用頻度と身近なみどりの満足度があるが、これだけでは人は育たない。継続はよいが、公園緑地と人を

つなぎ合わせる、結び付けるような利活用や、市民の主体的な参加の促進につながる積極的な取り組みが必要だと思う。市民の主体的な参加の促進については、例えば社会実験や緑化フェアにおいて事業を実施することが考えられる。

- ・仙台市役所本庁舎の建て替えや緑化フェアなどの機会にあわせて事業を組み込むことができるとよい。

○事務局（岡田課長）

- ・雨水に関しては道路部局や下水道部局との調整を行っており、最終的には他部局との連携した雨水対策について盛り込みたい。
- ・「みどりとともに人が育つまち」に関して、緑化フェアなどを契機に人を育てる取り組みを定着させることも必要と考えている。
- ・重点4の事業・取組みの「子どもの遊び場環境の充実」については、子育て環境におけるみどりの役割や位置づけについて関係部局と調整しており、それをふまえた施策を検討している。

○福岡委員

- ・できるだけ他部局との連携を促すような内容とすること、市民の中には企業や学生などもあるため一括りに市民と表現しないことが望ましい。多様な主体の参加を促し、コロナ禍でも公園やみどりを育てる展開に向けた議論が進むとよい。

○渡邊委員

- ・資料2-1の基本方針等と、資料3-1の重点的な取り組み、資料3-2の成果指標が繋がっていないように感じるため、ストーリーを改善できるとよい。
- ・資料3-2の「みどりと共生するまち」に係る成果指標は雨水に関する内容しかないため、バランスよく検討できるとよい。

○事務局（岡田課長）

- ・基本方針から重点的な取り組み、指標までの流れについて見直したい。

○舟引部会長

- ・資料3-1の重点的な取り組みは、今のみどりの基本計画における重点プロジェクトを改めて5つの基本方針へ分類した上で引き続き今後10年間で重点的に取り組むべきプロジェクトとして示したものであったが、その説明がなかったことも流れに違和感があったと理由と思われる。

○渡邊委員

- ・重点的な取り組みに建築物緑化ガイドラインが複数掲載されているが、どんな内容なのか。

○事務局（岡田課長）

- ・現在検討を進めている建築物緑化ガイドラインは、杜の都の環境をつくる条例に定めのない質に関する基準を定めることで緑化の質を向上させようとするものである。総合設計や都市再生特別地区、大規模小売店舗立地法に係る協議の中で運用することも検討している。

○舟引部会長

- ・公開空地をつくる時に例えば上杉分庁舎のようなものではダメである。建設局のみどり部門がガイドラインを作成し、あるべき姿を技術論も含めてきちんと示す必要がある。

○小貫委員

- ・資料2-2の将来イメージ図が目標であり、これに向けた取り組みが資料3-1の内容、その取り組みを評価するのが資料3-2の指標という1つのストーリーとして整理できていないと思われる。
- ・資料2-2のイメージを実現するためには、現在行っている取り組みの他にも必要な取り組みがあると思う。例えば、都心部のみどりはそれなりにあるが六丁の目などの東部は不足して

いる。現在の話題はどちらかというと量よりも質を担保することが中心となっているが、実際は量も不足しているエリアもある。また、このことについて評価する指標は 3-2 にない。指標は都心部に関するものが中心となっており、みどりを増やさなければならない場所、改善しなければならない場所も評価できるような体系になっていない。

○事務局（岡田課長）

- ・みどりの量は重要と認識しているが、基本方針の「みどりと共生するまち」や「みどりで選ばれるまち」を受けて量より質が前面に出る形となっていた。みどりの量の確保は基本的なことであるため修正する。

○池邊委員

- ・今回の計画に合わせて、従来の指標とは異なる新しいグリーンインフラ都市に向けた仙台方式の指標とする必要があると思う。
- ・重点的な取り組みについては、現状の内容は市の施策の羅列のように見え、一般市民は基本方針、重点の視点、事業・取組みの結びつきがわかりにくいと思われる。例えばガイドライン運用により目指す街並みや、街路樹の総合的な管理により実現できること、公園再生により生み出されるものなどを言葉で記載する必要がある。そうすることで企業や市民などステイクホルダーとの関わりが表れてくる。

○事務局（岡田課長）

- ・以前の資料では基本方針の中にみどりの将来像を記載していたが、わかりづらくなるため削除した。基本方針の中に将来像を入れ込んだ上でそれを実現するための重点的な取り組みであることを示したい。

○近藤委員

- ・みどりの物理的な機能は限られているが、オープンスペースであることは重要な機能だと思っている。また、機能が限られているため、他部局との連携や他の計画との整合性をとりながら計画をつくることで充実したものとなると思う。

○舟引部会長

- ・始めにグリーンインフラの哲学として、みどりによる多機能性や都市構造を書き込まなければならないと思う。
- ・街路樹に関して、今の内容は維持保全には言及しているが、Greenest になるためには植樹をきちんと行い、場合によっては定禅寺通のような派手なことを目指すことをする必要があるため、更新や新規の植栽についても書く必要がある。特に、資料 3-1 の重点 1 の事業・取組みに道路緑化事業があるが、道路の緑化は当たり前のこととして質にも言及し、道路部局と技術的指針を共有できるようにする必要がある。

○小貫委員

- ・みどりが不足し、この暑さの中で日陰のない公園もまだまだある。利活用が話題の中心になっているが、公園の質の向上のためのベースづくりについても検討が必要だと思う。

3. 閉会

○事務局（岡田課長）

—閉会—